

南部高等学校等保健会第2回理事会あいさつ

各校の保健主事及び養護の先生方におかれましては、日頃、各校の学校保健に係る様々な業務にご尽力されていらっしゃることに、心から敬意を表するものです。

さて、皆様には6月の本会総会で「こどもたちの命を守る」ことに関して、私から三つのお話をさせていただきました。AEDの研修に関すること、アレルギー疾患対応について、並びに熱中症事故と落雷事故の防止についてです。

すでに皆様ご案内のとおり、11月16日に県立高校が実施した強歩大会において、2年生の女子生徒が心肺停止の状態になり、翌日に搬送先の病院で死亡するという事故が発生しました。報道によれば、県警による死因は病死ということであり、学校では「大会との因果関係は不明」としているとのことでした。また、事故発生時には、AEDの使用を含む心肺蘇生法が施されたとも報じられております。亡くなった原因はともかく、尊い命が失われたという事実はたいへん悲しく残念なことであり、これまで以上に再発防止に向けた取組を進めていかなければなりません。

さいたま市には、体育活動時等における事故対応テキスト、通称「ASUKAモデル」というものがございます。6月の総会でも申し上げましたが、「ASUKAモデル」は、AEDの使用を含む心肺蘇生法を中心とする事故対応プログラムで、さいたま市内の全ての学校で教員研修に必ず活用することとされております。今年2月には、その研修効果を高めるためのDVDも制作され、DVDの内容はYou Tubeにもアップされております。

6月の総会で、県立学校の先生方にも是非一度ご覧いただき、校内研修などでご活用いただきたいと申し上げました。研修を実施すれば死亡事故が起こらないとは言い切れませんが、研修に参加すればいざという時に迷わず心肺蘇生法を実践できるとは限りませんが、死に至るリスクを少しでも軽減できることは間違いありません。

万一の備えとして、すべての学校で、すべての先生方が、緊急時に対応できるようスキルを上げることでしか、こういった事故からこどもたちの命を守ることはできないのだと考えます。そしてそのためには、本日ご参会の皆様が率先して、教職員のスキルアップの

重要性を機会あるごとに各学校で訴えていただくことが必要だと思います。今回の悲しい事故を対岸の火事とせず、自校において明日にでも起こるものだとお考えいただいて、再発防止にご尽力いただきたいと思います。

南部高等学校等生徒保健委員研修会あいさつ

本日ここに参加いただいている各学校保健委員の生徒の皆さんは、それぞれご自身の学校の保健委員会で、日頃、中心となって活動していることと思います。学年はそれぞれですが、各校の代表として参加しているのだと理解しています。

ですから、この研修会で見たり聞いたり経験したりすることは、来週以降、それぞれの学校で、まずは保健委員会の中で報告するなどして、他の保健委員の皆さんに内容を教えてあげてください。そして、できれば何らかの形で、例えば保健だよりで紹介するなどして、全校生徒に知らせてもらいたいと思っています。

本日の研修会では、『逆境に負けない力「レジリエンス」を育てよう』と題したお話をさせていただきます。資料の表紙にその題が書かれていますが、「レジリエンス」という聞き慣れない言葉の後に「逆境力・回復力」と書かれていますよね。つまり、逆境に打ち勝つ力、落ち込みから回復する力、言い換えれば困難に耐えてショックから立ち直る力、そういう力を育てようというお話です。

思春期と言われる年代の皆さんは、人の一生の中でも特に感受性が豊かで、小さなことにでも大きく感動する反面、些細なことでも激しく落ち込んだり傷ついたりする頃です。どうしてあの時はあんなに凹んだりしたのだろうと、後になって思い返すことが、皆さんにもあるでしょう。今はなくても、いずれあるだろうと思います。

そんなセンシティブでナイーブな感受性を持つ皆さんに、いざという時に自分で自分を励ましたり、元気づけたりできる力、「レジリエンス」を身に付けてもらいたいというのが、本日の研修会の目的です。しっかり理解していただきたいと思います、期待しています。